

平成23年度

こと はじめ

予算事始め

さがみはらの予算をわかりやすく解説します

contents

P2 予算の基礎知識

- ・予算は誰が決めるの？
- ・予算はいつ成立するの？
- ・『会計』のしくみについて

P4 歳入(1年間の市の収入)

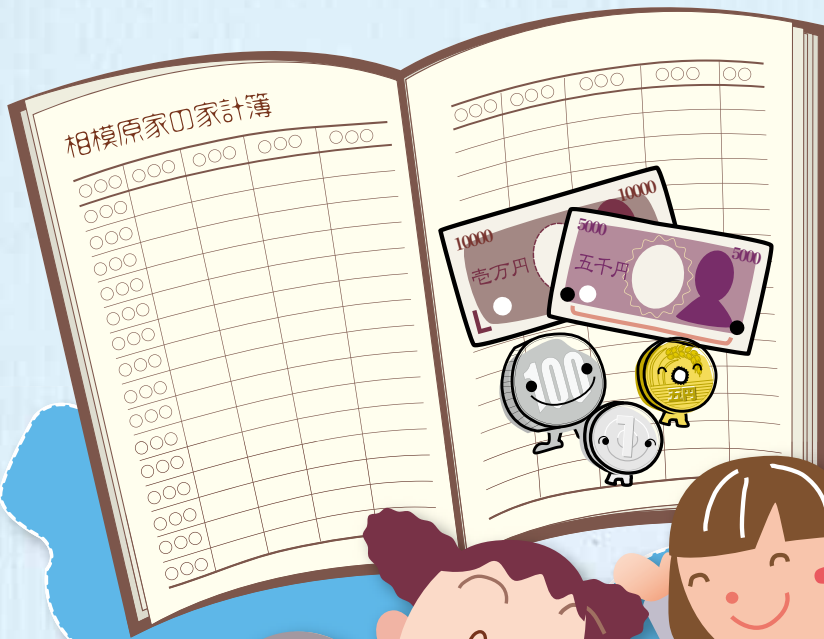
P6 歳出(1年間の市の支出)

P8 平成23年度の主な取り組み

P10 相模原市財政の現状

P13 健全財政に向けた主な取り組み

P14 相模原家の家計簿



潤水都市 さがみはら

相模原市



予算の基礎知識



それではまずはじめに、
基本的な疑問にお答えしましょう。
予算とはどういうものなのでしょうか？

予算は誰が決めるの？

福祉、教育、ごみ処理、道路の整備など、市役所がやらなければならない仕事はたくさんありますが、皆さんにより良い生活を送っていただくために何をしたら良いか、そして、そのためにどのくらいのお金が必要なのかなどを市役所のさまざまな部署で検討します。市長は、その検討結果に総合的な判断を加えて予算の案を作成します。

できあがった予算案は、皆さんが選挙で選んだ市議会議員で構成される市議会に提出され、内容の審査を経た後に、市議会の議決を受けてはじめて、予算が決まります。

たとえば家庭では…

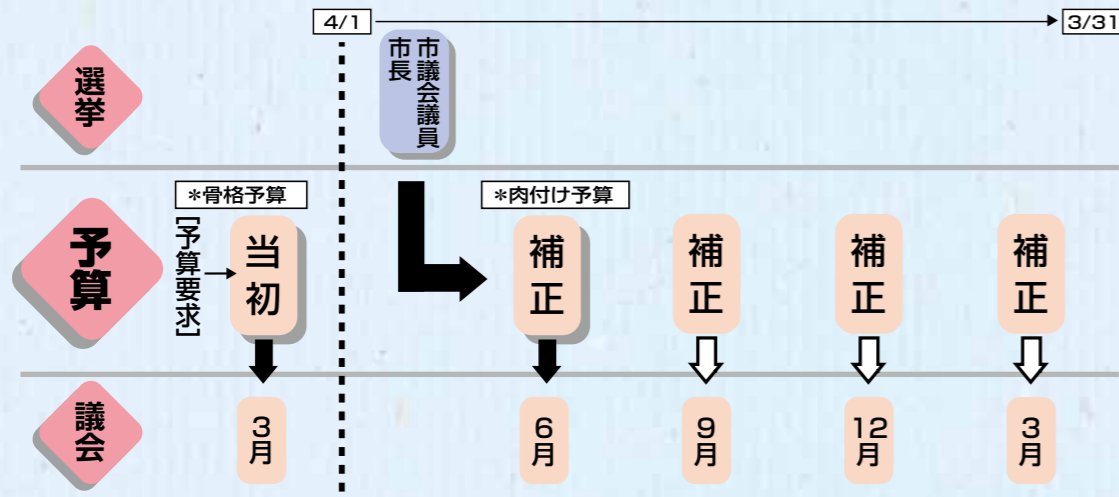


予算はいつ成立するの？

4月1日から翌年3月31日までの1年間に必要とされる予算は、当初予算として通常、年度が始まる直前の3月議会で成立しますが、年度の途中で、当初予算で想定できなかった新たな予算が必要になったときなどは、定例的に開催される議会（6月・9月・12月・3月）等で、補正予算として審議され、議決を受けて予算が成立します。

骨格予算と肉付け予算

平成23年度当初予算は、4月に市長選挙と市議会議員選挙が行われたため、新しい市長の政策的な経費を反映していません。このように、毎年、常に必要となる経費や継続的な事業などの経費を計上し編成する予算を「骨格予算」といいます。政策的な経費はあらためて、新しい市長のもとで、補正予算として盛り込むこととしています。この補正予算を「肉付け予算」といいます。



『会計』のしくみについて

特定の収入（国民健康保険税、下水道使用料、介護保険料など）がある事業については、お金の出し入れを分かりやすくするため、お財布を分けて管理する必要があります。このお財布のことを『会計』といい、福祉・教育・道路整備など皆さんの生活に広くかかわる会計を『一般会計』、その他に、目的によってお財布を分けてつくる会計を『特別会計』とよんでいます。

相模原市には、右に示すように10の特別会計があります。

一般会計

福祉

教育

道路整備

他

特別会計

- 国民健康保険事業
- 簡易水道事業
- 下水道事業
- 財産区
- 自動車駐車場事業
- 農業集落排水事業
- 介護保険事業
- 後期高齢者医療事業
- 母子寡婦福祉資金貸付事業
- 公債管理



ではいったい、相模原市の予算は
どれくらいなのでしょう…？



平成23年度一般会計予算額と人口の主な政令指定都市との比較

※人口は22年10月1日現在(国勢調査速報値)

大阪市(約267万人)	1兆7,205億円
横浜市(約369万人)	1兆3,899億円
名古屋市(約226万人)	1兆 499億円
札幌市(約191万人)	8,464億円
岡山市(約 71万人)	2,555億円
相模原市(約 72万人)	2,338億円
北九州市(約 98万人)*	1,839億円

政令指定都市の中では、18番目の
予算規模です。

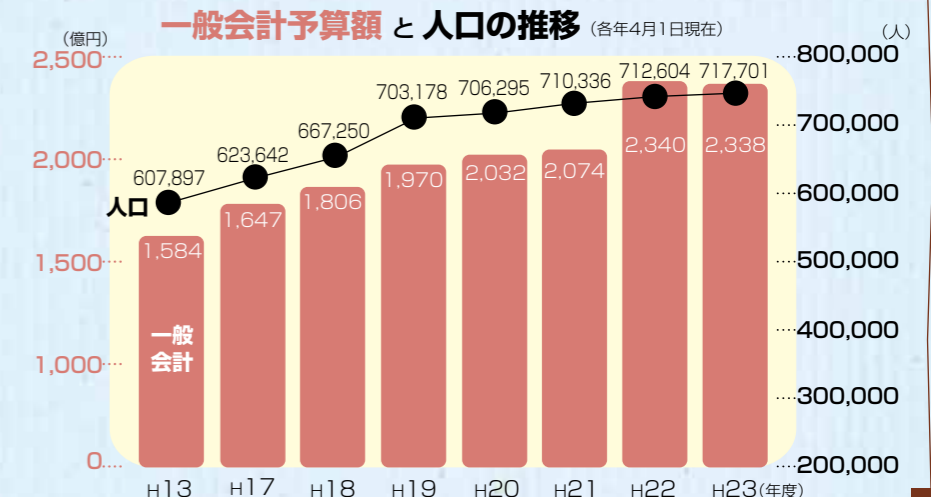
※人口は万人未満、予算額は億円未満を
四捨五入。

*予算編成時期に市長選挙が行われたこと
から、4月から6月までの暫定予算です。

右のグラフのとおり、人口の増加とともに一般会計の予算額も年々増加しています。

平成23年度は、骨格予算として編成したことから、0.1%の減となっています。

※平成18・19年度の数値には津久井地域との合併による増分を含んでいます。



歳入

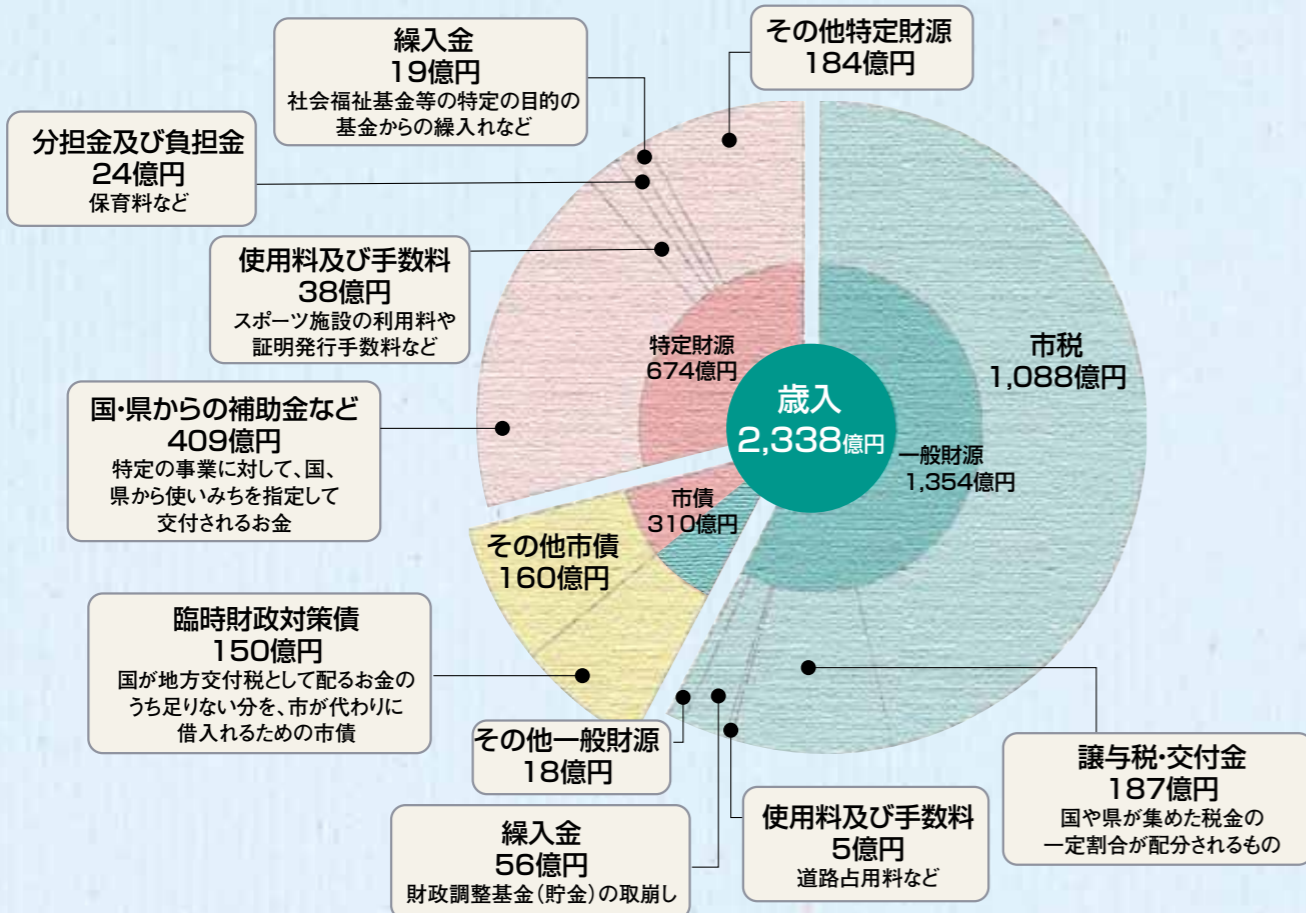
1年間の市の収入



それでは、平成23年度一般会計予算の中身について説明します。

市の収入にはどんなものがあるの？

相模原市の収入（歳入）のうち、もっとも大きな割合を占めているのが『市税』です。このほか、国や県から配られるお金や借入金（市債）など、さまざまなものがあります。収入は、使いみちが自由な「一般財源」と、使いみちが決められている「特定財源」に分けられます。市がさまざまな市民ニーズに対応して事業を行っていくためには、一般財源の確保がとても重要になります。



市税の内訳

市税は収入全体の約47%となっています。主な内訳は次のとおりです。

個人市民税 425億円
個人の収入などに応じて納めていただく住民税のことです。

固定資産税 437億円
土地や建物などをお持ちの方に納めていただきます。

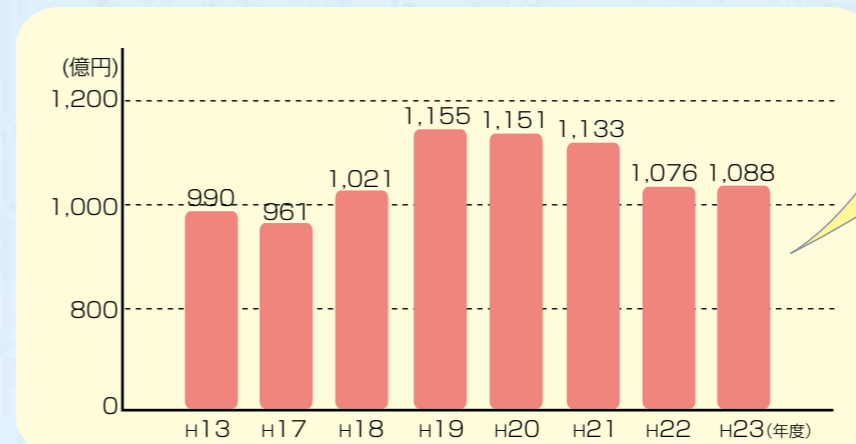
その他 76億円
軽自動車税やたばこ税など

法人市民税 62億円
市内にある会社に納めていただきます。

都市計画税 88億円
市街化区域内に土地や建物などをお持ちの方に納めていただき、区域内の整備に使います。

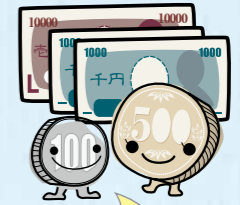
市税は増えているの？ 減っているの？

市税収入の推移



※平成13～21年度は決算額、22・23年度は当初予算額で示しています。
※平成18・19年度は津久井地域との合併による増分を含んでいます。

市民一人あたりでは約15万円です
(対前年度増減なし)



1ヶ月の平均は約12,600円です。

相模原市の歳入でもっとも大きな割合を占める市税は、企業収益の改善など法人市民税の増などにより、前年度と比べ12億円の増収となる見込みです。

地方交付税の一部が借金に振り替えられているって本当なの？

地方交付税は、全国どこに住んでいても、一定水準のサービスが受けられるよう、必要となるお金を国が地方に保障するための制度です。所得税や消費税、酒・たばこにかかる税金など国が集める税金の一部が交付されるもので、地方のお金が不足する場合に配られる普通交付税と、災害が起きた場合の復旧などに必要なお金として配られる特別交付税があります。

現在、国が集める税金などに不足が生じて、普通交付税として必要な現金が確保できないため、その足りない分を地方が借金（市債）でまかっています。その市債を臨時財政対策債といいます。

本来普通交付税として配られるべきお金の一部が、国の財政事情によって借入金に変わってしまうわけですから、地方にとっては、市債残高が増える要因にもなり、好ましくないことです。

普通交付税の本来の役割を踏まえて、借金ではなく、必要な現金が地方に配られるよう、国に働きかけをしています。

普通交付税のイメージ

基準財政需要額

(標準的な行政サービスを行う上で必要な支出)

⋮ 財源不足額 ⋮

基準財政収入額

(標準的な収入)

普通交付税
対策債
臨時財政

歳出

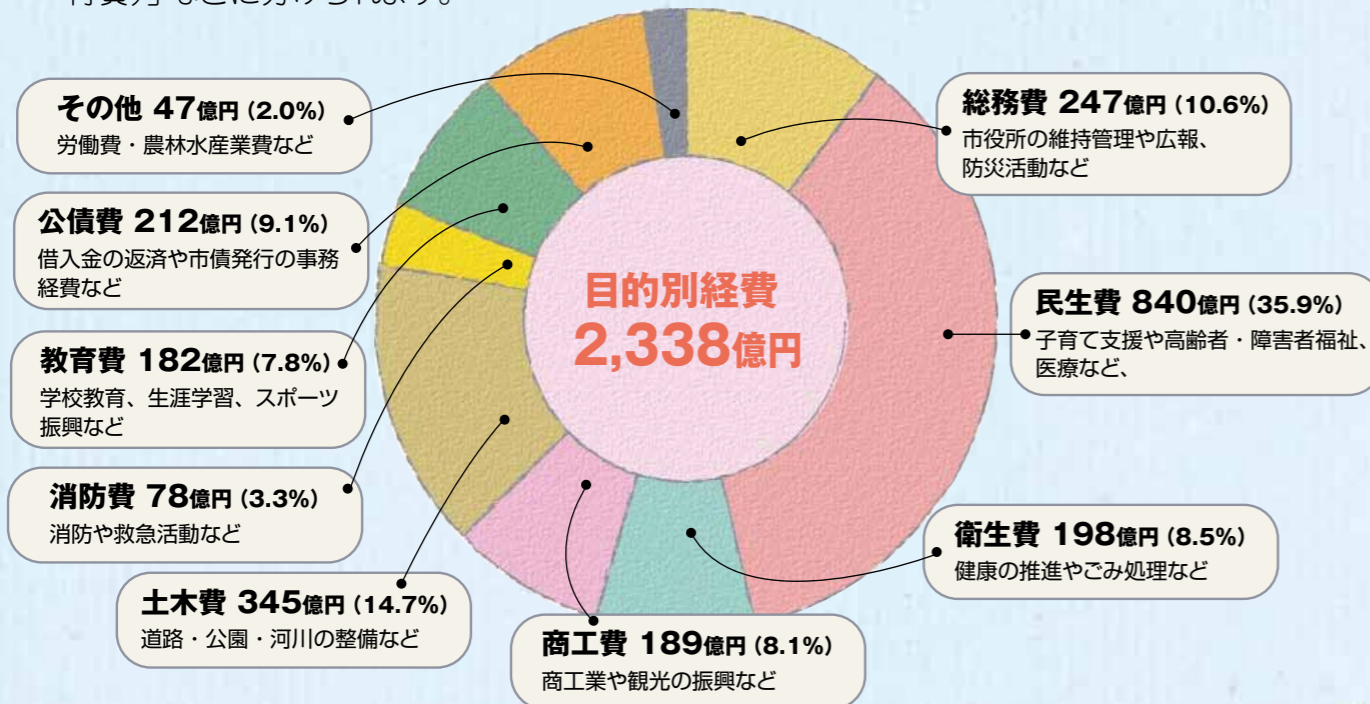
1年間の市の支出

歳出は、使いみちや目的によってさまざまな見方をすることができますが、ここでは『目的別経費』と『性質別経費』という2つの分類方法で説明します。



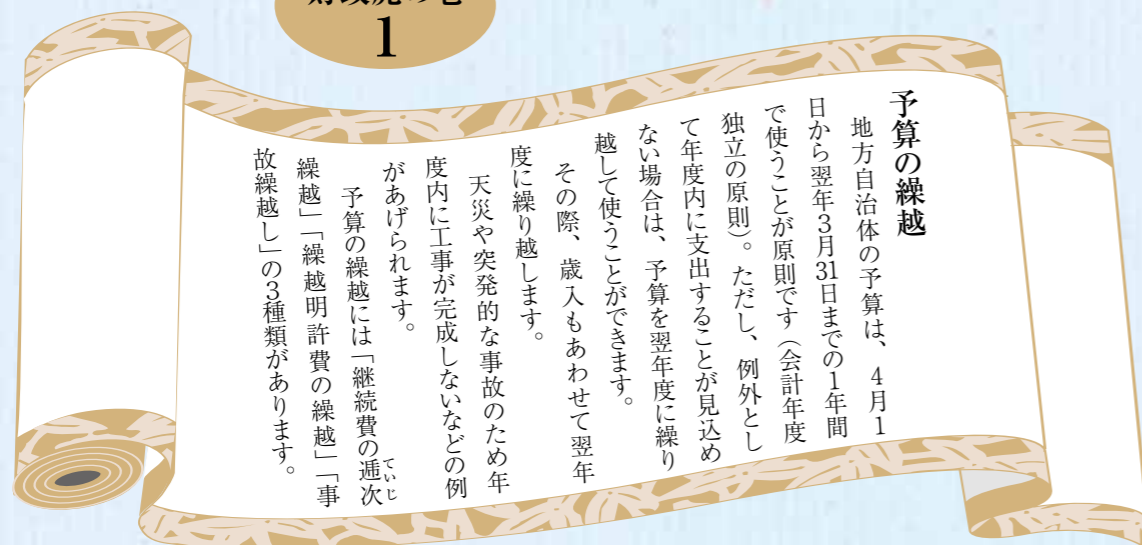
目的別経費とは…

歳出をサービスの目的で分類したもので「福祉や医療などの経費（民生費）」、「保健所の運営、ごみ処理などの経費（衛生費）」、「学校教育や生涯学習などの経費（教育費）」などに分けられます。



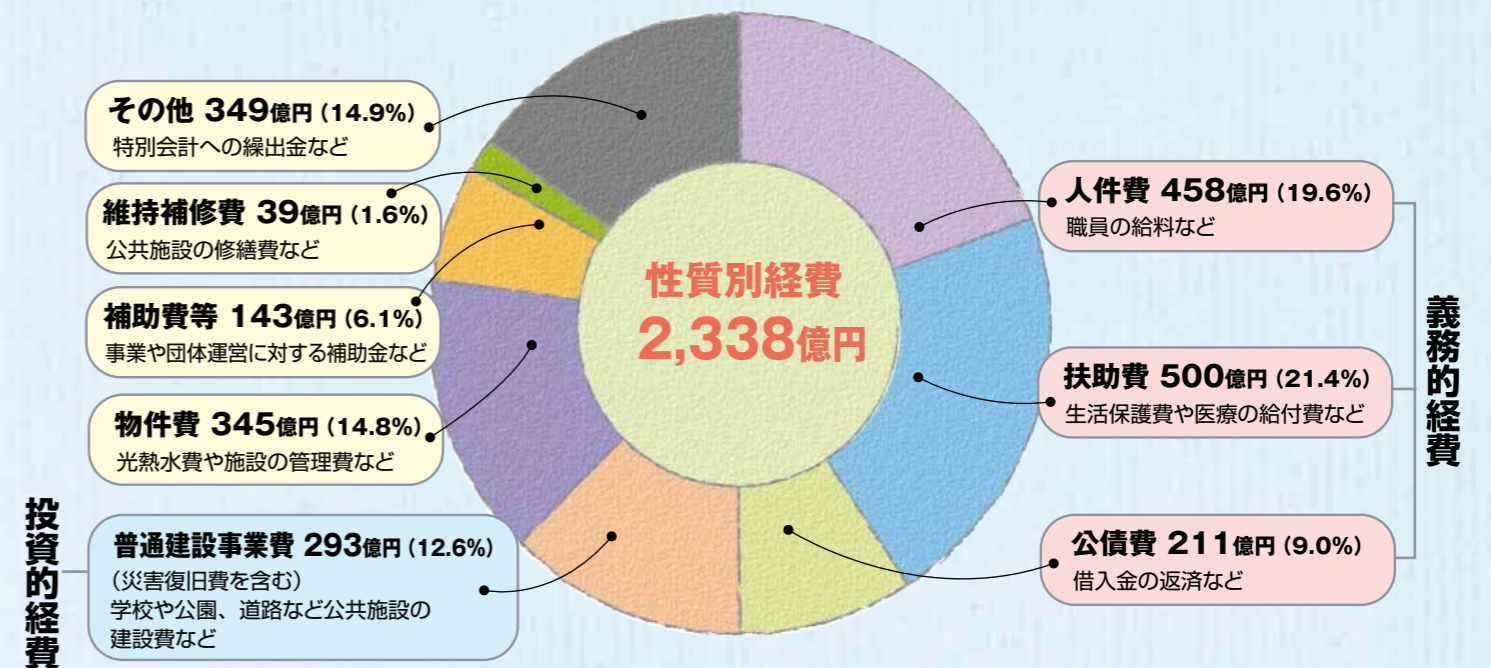
歳出全体に占める割合は民生費が最も高く、予算の約3分の1を占めています。これは、少子高齢化の進展に伴い、福祉や医療に必要な経費が増えていることなどが主な理由です。

財政虎の巻 1



性質別経費とは…

歳出を経費の性質に着目して分類したもので、「人にかかる経費（人件費）」「建物など将来への投資となる経費（普通建設事業費）」などに分けられます。

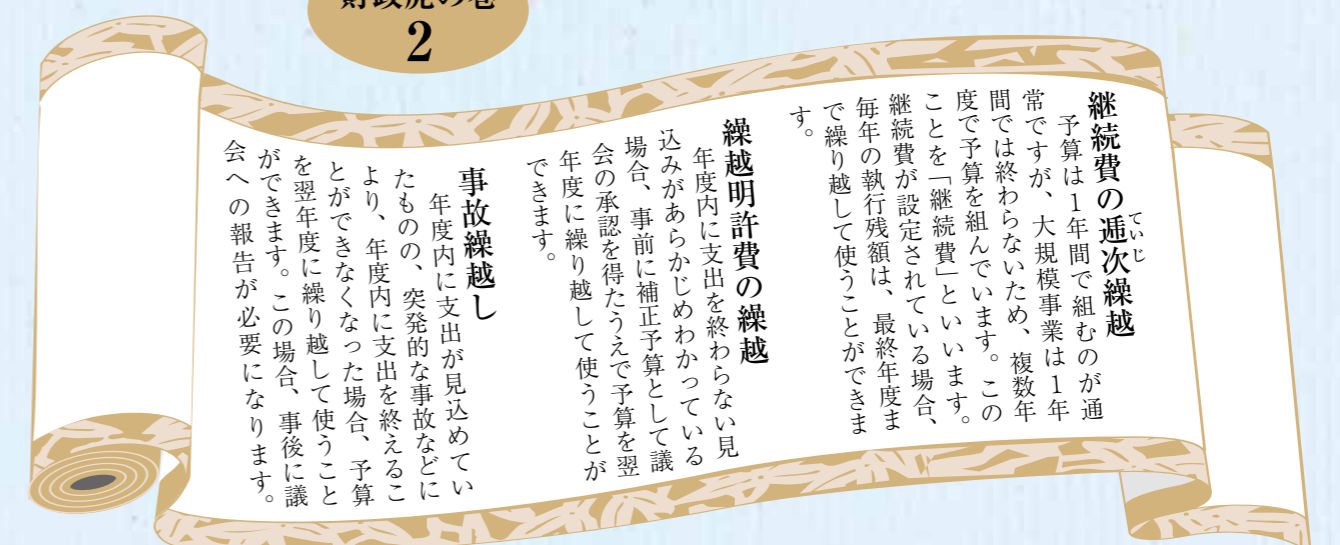


歳出のうち、任意に削減することのできない経費（人件費・扶助費・公債費）のことを『義務的経費』といいます。扶助費については高齢化や医療費の増大などにより年々増加していますが、人件費と公債費については削減に努めるなど、義務的経費の割合を低くするための取り組みを進めています。

投資的経費

義務的経費

財政虎の巻 2



平成23年度の 主な取り組み

平成23年度の当初予算は、骨格予算として編成を行ったものですが、福祉や医療など市民の暮らしの向上、本市の将来の発展につながる取り組みに重点を置いた予算編成を行いました。

☆基本目標Ⅰ 誰もが安全でいきいきと暮らせる安心・福祉都市

●保育所待機児童解消に向けた取り組み

10億8,409万円

・待機児童解消に向けた定員の拡大を図るための民間保育所(8施設)の整備及び家庭的保育事業を実施します。



●特別養護老人ホーム等の整備促進

18億9,700万円

・特別養護老人ホーム等(7施設)の建設費を助成します。



●重症心身障害児者訪問看護の実施

646万円

・在宅重症心身障害児者の医療的管理の充実及びその家族の負担軽減を図るための訪問看護支援等を実施します。



●精神科救急医療受入体制等の充実

1,436万円

・日曜日など、かかりつけ医が休みのときに受診できるよう、協調体制を補完する本市独自の精神科初期救急医療体制を整備します。



●個別予防接種の充実

7億9,949万円

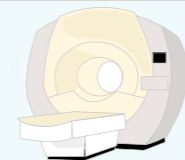
・子宮頸がん予防ワクチン、ヒブワクチン、小児用肺炎球菌ワクチンの無料接種を実施します。



●疾患別救急医療体制の充実

6,471万円

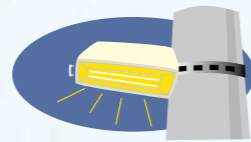
・脳神経系救急医療を実施する医療機関への助成など、疾患別救急医療体制を整備します。



●防災対策の推進

7,549万円

・災害時用の食料、活動用資機材等の備蓄や自主防災組織への支援、防災リーダーの育成の取り組みなどを推進します。

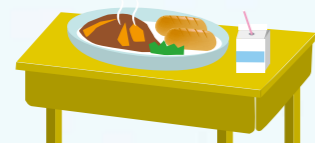


☆基本目標Ⅱ 学びあい 人と地域をはぐくむ教育・文化都市

●中学校完全給食の推進

7億2,553万円

・中学校における完全給食の全校実施を推進します。



●(仮称)上溝学校給食センターの整備

1億1,592万円

・(仮称)上溝学校給食センターの実施設設計、準備工事を実施します。



☆基本目標Ⅲ やすらぎと潤いがあふれる環境共生都市

●地球温暖化対策の推進

1億9,005万円

・地球環境保全対策費補助金を活用した街路灯等の高効率化など、地球温暖化対策を推進します。



●水源の森林づくりの取り組み

7,838万円

・水源かん養など森林の持つ公益的機能を高めていくための取り組みを実施します。



●緊急経済対策の実施

157億6,091万円

・景気の低迷に伴う中小企業への融資枠の拡大や緊急雇用創出事業などを実施します。



☆基本目標Ⅳ 活力にあふれ多様な交流が生まれる広域交流拠点都市

●広域的な道路ネットワークの設備

99億6,437万円

・さがみ縦貫道路の建設促進、津久井広域道路、県道52号(相模原町田)など、広域幹線道路の整備を進めます。



●インターチェンジ周辺地区の整備促進

1億8,187万円

・さがみ縦貫道路インターチェンジ周辺の麻溝台・新磯野地区、当麻地区、川尻大島界地区の土地区画整理事業等の設計などを実施します。



●市街地再開発事業の促進

29億3,346万円

・相模大野駅西側地区や小田急相模原駅北口の市街地再開発事業に助成し、事業を促進するとともに周辺道路等の整備を進めます。



☆基本目標Ⅴ 市民とともに創る自立分権都市

●区政によるまちづくりの推進

8,543万円

・区の魅力づくりのための、シンボルマーク・カラーの制定などに取り組みます。また、市民の自主的な取り組みへの支援を行います。

●(仮称)緑区合同庁舎の整備

6億9,435万円

・緑区の行政サービスと保健福祉サービスの拠点として、区役所、保健福祉センター、メディカルセンターなどの複合施設となる(仮称)緑区合同庁舎を整備します。

相模原市財政の現状

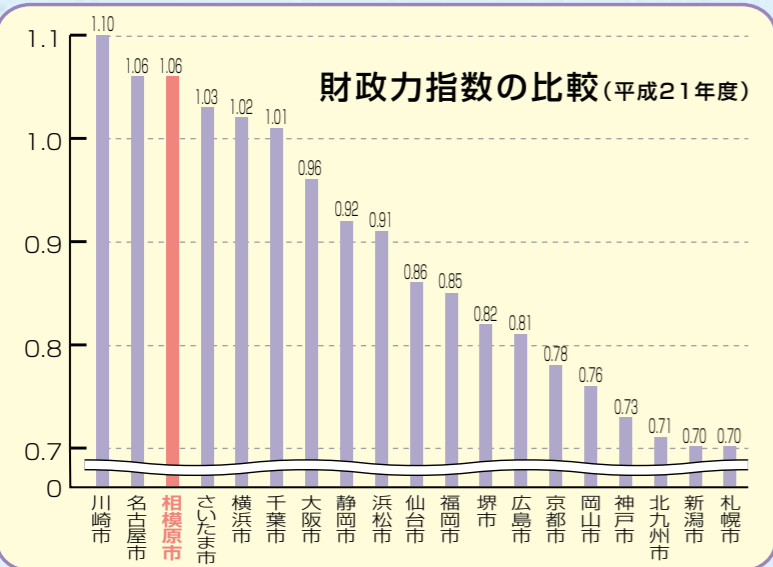
相模原市の財政の現状について、
主な財政指標を見てみましょう。

Q1. お金は足りているの??

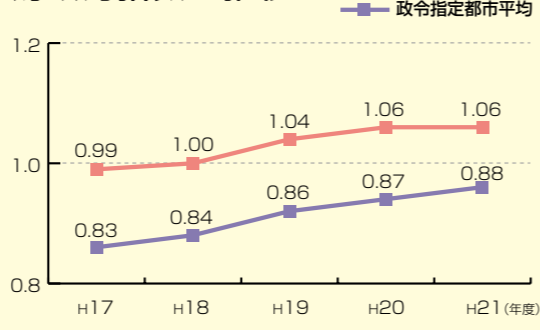


財政力指数 (収入と支出を国の基準に基づいて比べたもの)

指数が「1」の場合、歳入と歳出のバランスがとれている状態であり、「1」より大きいと歳入が歳出を上回り、財政的にゆとりがあることを示します。また、「1」より小さいと、歳出が歳入を上回り、財政的に苦しい状態であるといえます。



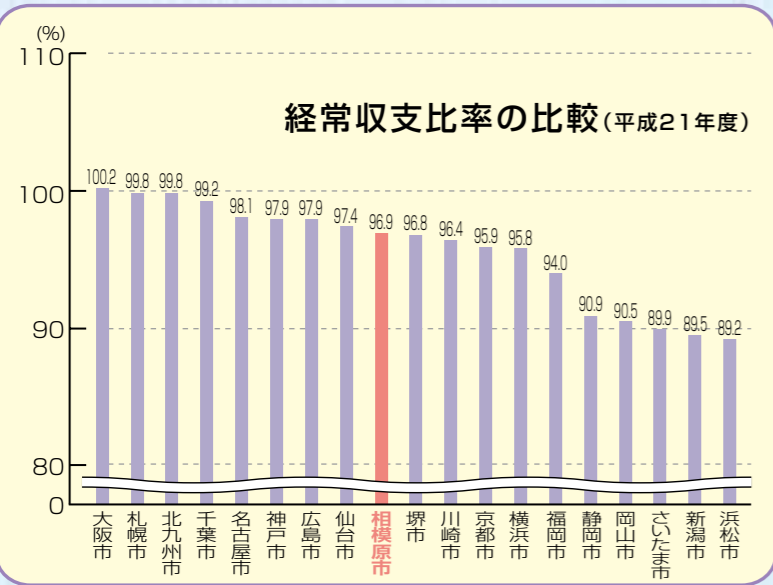
財政力指数の推移



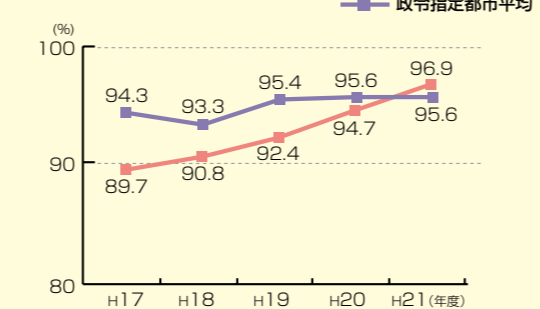
相模原市は、全国の政令指定都市の中でも第3位とかなり上位に位置しています。

経常収支比率

経常収支比率は、市税など常に見込める収入と、公債費など常に支払う必要がある支出を比べたもので、この割合が低ければ、それだけ新しい仕事にお金を振り向けることができます。



経常収支比率の推移



相模原市は、政令指定都市の中で、中位に位置していますが、年々数値が上がっており、「財政の硬直化」が進んでいます。硬直化が進むと新しい仕事を我慢する必要がでてきたり、急にお金が必要となった場合に対応しづらくなったりします。

Q2. 市の財政状況の外部評価は?

相模原市債は、第三者機関から財政状況などに基づく格付け(ランク付け)を受けています。(格付機関：スタンダード&プアーズ)

相模原市は20段階中上から4番目の「AA-(ダブルエー・マイナス)」で、国、東京都、横浜市などと同格の非常に高い評価を得ています。

格付け	地方公共団体等 (平成23年4月末現在)
AA-	日本国 東京都 相模原市 愛知県 横浜市 新潟市 大阪市
A+	京都市 千葉市
A	宮崎市

格付け アウトルック
AA- / ネガティブ

※地方公共団体は、国を超える格付けとなることはありません。現在、相模原市は国と同位で市として取り得る最高の格付けとなっています。

評価のポイント

- ・借金の額が小さいこと
- ・安定した税収が見込まれること
- ・厳しい自主ルールなどにより財政運営を行っていること



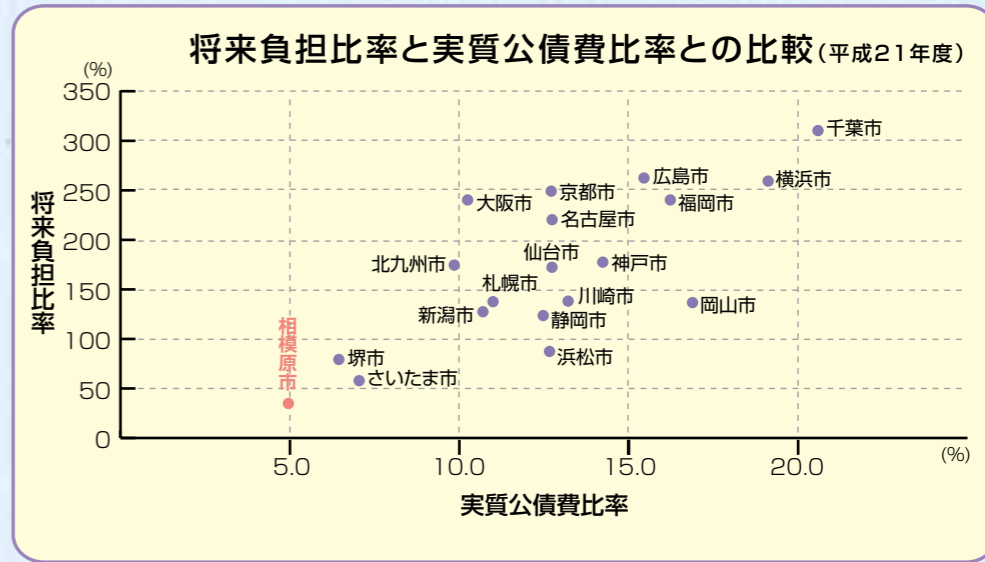
Q3. 市の財政は健全なの?

将来負担比率と実質公債費比率

将来負担比率とは、借金の返済など既に将来支払うことが決まっている金額などを含めた事実上の総負債の残高が、1年間の収入総額に対しどのくらいの割合かを示したもので、数字が小さいほど、将来の負担が少ないということです。国の基準で一定以上(将来負担比率が400%以上)になった場合は借金削減の計画をたてなければなりません。

実質公債費比率は、収入に対する公債費(借金の返済費用)の占める割合で、数字が小さいほど、必要以上に借金をしすぎているというものです。一定基準(25%以上)を上回ると市債の発行が制限されます。

相模原市は、いずれの比率も政令指定都市の中で最も数値が低く、健全財政を維持しているといえます。

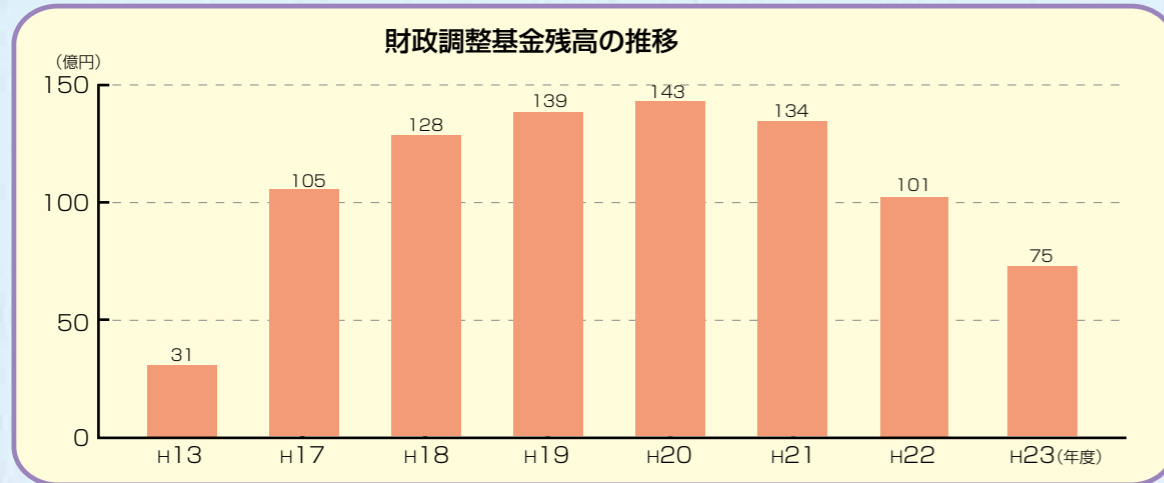


Q4.市の貯金や借金はどうなっているの？

財政調整基金 (市の貯金)

急にお金が必要になったり、収入が落ち込んだりしたときに対応できるよう、市でも貯金をしています。これを財政調整基金と呼んでいます。

相模原市では、前年度に支出を切りつめて余裕が出たお金の半分以上を積み立てることをルールとして、積み立てを行ってきましたが、平成21年度からは、残高が減少しています。これは、経済不況の影響により市税などの収入が減少したことによるものです。

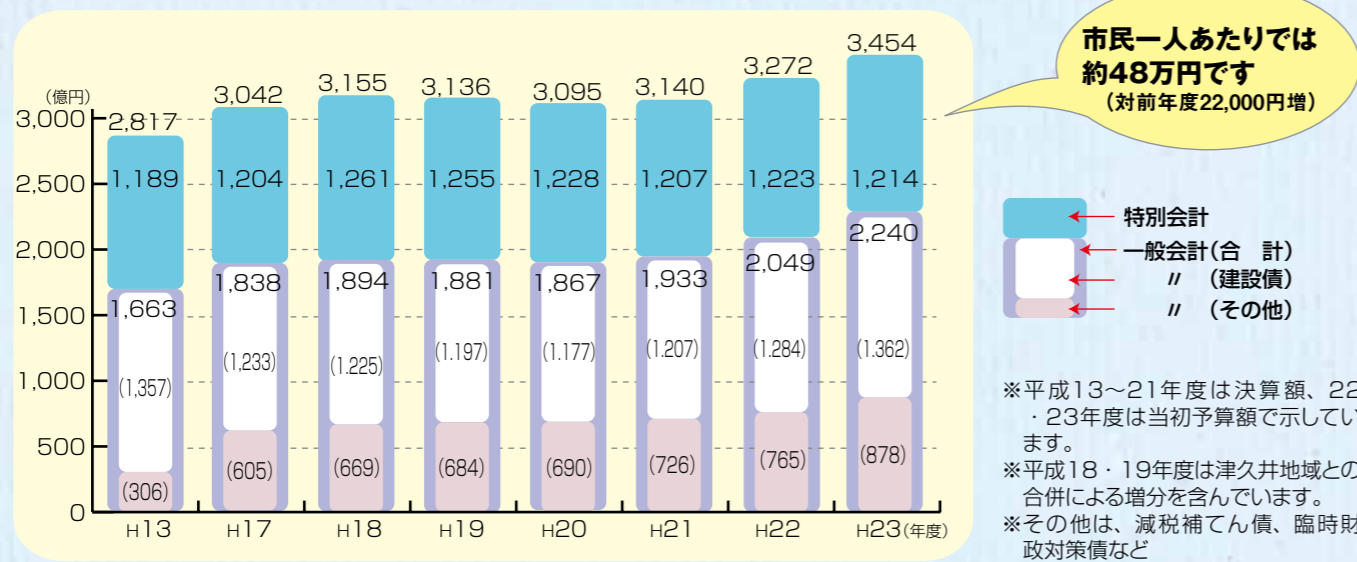


※平成13～21年度は決算額、22・23年度は決算見込額

市債 (市の借金)

市債は借金ですから、無いほうが良いと考えるのがあたりまえです。でも、公園や道路などの整備に必要なお金を1年間の予算でまかなってしまったら、その年は他の仕事が出来なくなってしまいます。それに公園や道路はこれから長い間、たくさんの方が利用する施設ですから、将来の市民の方にも平等に費用を負担していただくことも、市債を発行する理由の1つです。ただし、借入れが多くなればなるほど返済が大変になりますので、相模原市は計画的な市債の発行に努めています。

市債残高の推移



健全財政に向けた主な取り組み

相模原市では現在の健全な財政を将来に渡り維持するため、いろいろな取り組みを進めています。

相模原市は、現時点では財政的に健全といえる状態ですが、市債残高は横ばいから増加傾向、財政調整基金の残高も減少しているとおり、将来への課題がないわけではありません。

そこで、将来にわたっても引き続き健全な財政を維持するために、市ではさまざまな取り組みを進めています。



行財政改革の断行

市民と行政が一体となって継続的・計画的に都市経営に取り組むため、平成17年度に「さがみはら都市経営ビジョン」を策定しました。さらに、このビジョンを着実に推進するため、各取り組み項目に数値化・指標化による目標値を設定した「アクションプラン」を定めています。

さがみはら都市経営ビジョン 平成17年度策定 ⇨ 具体的な行動計画としてアクションプランを策定

期	期間	設定項目	効果額	主な行動計画
第1期	平成17～21年度	85項目を設定	約76億円	<ul style="list-style-type: none"> 市税等収納の強化 民間開放の推進 特別会計の健全化 低未利用資産の活用等 団体支援の見直しなど
第2期	平成22～24年度	第1期の取り組み事項を見直し72項目を設定		

市債発行の上限設定 (借入れできる上限額の自主規制)

市の借金には、実質公債費比率や将来負担比率などの国の基準でいろいろな規制がありますが返済額や残高に関するもので、借入額を直接規制するものではありません。そこで相模原市では借入額に関する自主的なルールを作って健全財政の維持に努めています。

年度	目標	実績	達成状況
平成17～21年度	5年間の発行総額 800億円以内	798億円	達成
平成22年度	1年間の発行総額 320億円以内 実質公債費比率 8%以下	288億円(見込み) 約5%(見込み)	達成見込み
平成23～25年度	3年間の発行総額 1,000億円以内 実質公債費比率 8%以下		

財政情報の公開

市では、予算や決算など財政情報の公開に努めています。広報さがみはらや市のホームページへの掲載、財政パンフレットの作成のほか、市の財政の現状や過去の動きなどをわかりやすく解説した「相模原市財政白書」を作成し、市の行政資料コーナーで販売していますので、ご活用ください。

相模原家の 家計簿

市の財政について、皆さんに身近に感じていただくために、市の予算を家計に例えてみます。相模原家の年収を500万円として、市の予算を当てはめると…

～相模原市の平成23年度予算を年収500万円の家計に例えると～

収入		支出		
給与	基本給(市税)	233万円 (+3万円)	食費(人件費)	98万円 (△3万円)
	諸手当(課税・交付金・国県支出金など)	121万円 (△15万円)	医療費(扶助費)	107万円 (△11万円)
	貯金の取り崩し(基金繰入金)	16万円 (△1万円)	ローンの返済(公債費)	45万円 (+2万円)
	家賃収入(使用料・手数料など)	58万円 (+11万円)	その他の生活費(補助費等・物件費など)	147万円 (+18万円)
	親からの仕送り(地方交付税)	6万円 (△5万円)	家の増改築費(普通建設事業費)	63万円 (△10万円)
本来からの仕送り	生活資金のローン(臨時財政対策債)	32万円 (+13万円)	子どもへの仕送り(他会計への繰出金)	40万円 (+4万円)
	家の増改築のローン(その他市債)	34万円 (△6万円)	合計	500万円
	合計	500万円	(カッコ内は前年度との比較)	

*このほか、ローンの残高は、479万円。
貯金は3万円を積み立て、残高が37万円になります。

収入については、昨年より諸手当が大幅に減っており、逆に生活資金のローンが増えています。生活資金のローンは、親(国)の家計が苦しいため、親の仕送りにかわるものとして借入れをしています。(ローンの返済資金は親が仕送りする約束になっています。)

支出については、食費を切りつめているものの、昨年よりその他の生活費が増え、依然として医療費が大きく家計を圧迫しています。

～『予算事始』の作成にあたって～

江戸時代の中期、「この本を翻訳することができれば、日本の学問を変えることができる」という高い理想と信念を持ち、オランダ語で書かれた解剖学の本の翻訳を、頼るべき辞書も無いまま手探りで取り組んだ初期の蘭学者(オランダ語で西洋の学問を学ぶ者)の苦労が書かれている『蘭学事始』という書物をご存知でしょうか?

「予算」は、市民の皆さんに納めていただいている税金などがどのように使われるのかをまとめたもので、市民生活に密接に関わっています。また、「財政の健全化」とか「財政破たん」とかという言葉もしばしば耳にされると思いますが、自分の暮らすまちの財政が健全に運営されているかどうかは、まさに、市民生活に大きな影響を及ぼす重要事項です。

一方、専門用語や仕組みの複雑さなどから、市民の皆さんに予算や財政の中身を分かりやすく説明することはなかなか難しいことですが、相模原市の予算や財政状況を分かりやすく解説し、関心を持っていただくことによって、相模原が変わっていく、そんな思いをこめてこのパンフレットを『予算事始』と名づけました。

『予算事始』を読んでいただいて、一人でも多くの皆さんに「予算が身近になった」「相模原市の財政に興味をもった」と感じていただければ幸いです。



相模原市の予算や財政に関する詳しい情報は市ホームページでご覧いただけます。

<http://www.sagamihara.kanagawa.jp/>

[トップページ]⇒[市政情報]⇒[政策・総合計画・財政]⇒[市の財政]からアクセスしてください。

シティセールスコピー『潤水都市 さがみはら』
『潤水都市 さがみはら』に込められた思い
○相模川の豊かな流れや道志川の清流、相模湖、津久井湖、宮ヶ瀬湖など首都圏の水がめを有しています。
○清らかな水・豊かな自然に恵まれ、市民の心も潤いに満ちています。
○戦後生まれ初の政令指定都市で若く活気にあふれ、「純粋」という言葉にかけています。

緑区 区の色／若竹色
緑区が、未来へ向けて羽ばたくようなイメージのデザインにしています。
緑と未来の「ミ」をモチーフに、自然との融和を図るまちづくりを表しています。
区の色若竹色には、これからの成長への願いを込めています。

中央区 区の色／さくら色
中央区(CHUO)の頭文字Cと数字の9(区内9地区)を表し、真ん中に桜の花びらを1枚配置することで、区のみとまりを表現しています。
「市民桜まつり」の会場にもなる「市役所さくら通り」。その桜並木の咲き誇っている様子が、まさに中央区をイメージさせるのにふさわしい姿であることから、区の色を「さくら色」にしています。

南区 区の色／南区ブルー
南区の頭文字である「み」をモチーフに、都会的洗練と自然の穏やかさ、若々しい活発さと大人の落ち着き、伝統と未来といった、複数の要素が互いに影響しながら、相乗効果で街やコミュニティが豊かに発展していく様子を表しています。
区の色は、南区が持つさまざまな要素の調和をイメージし、クリーンな印象で誰もが共感しやすい「南区ブルー(緑味のあるブルー)」にしています。

基礎データ
(平成23年4月1日現在)
人口…717,701人
緑区 176,815人
中央区 266,533人
南区 274,353人

世帯数…304,014世帯
緑区 70,763世帯
中央区 112,460世帯
南区 120,791世帯

面積…328.83km²

市のあゆみ

昭和16年 4月
相模原町誕生(2町6村合併)

昭和29年 11月
相模原市制施行 人口80,374人

平成15年 4月
中核市へ移行

平成18年 3月
相模原市・津久井町・相模湖町合併

平成19年 3月
相模原市・城山町・藤野町合併

平成22年 4月
政令指定都市へ移行

SOIN プロ集団 26社
相模原市印刷広告協同組合

印刷・広告受注、地域情報紙印刷配布、
市民まつりパンフレット・暮らしのガイド(ナイスガイドさがみはら)作成
街美化アダプト制度の活動、PTA・公民館広報誌講習会(年1回開催)等

相模原市印刷広告協同組合代表理事 長田 功
〒252-0239 相模原市中央区中央3-7-5 ☎042(776)6100 ☎042(776)5656 <http://www.soin.or.jp/>

相模原事務用品協同組合 代表理事 尾作 晃

(有)オオマ 042-778-4290	田井興業(有) 042-752-4997	(有)山本書店 042-784-0016
菊屋浦上商事(株) 042-754-9211	(株)敏正堂 042-685-1511	(株)洋文堂 042-730-3421
(有)橋南堂 042-772-2408	福文堂 042-784-0136	(有)渡邊文相堂 042-761-5518
久米文具店 042-754-6560	(株)文盛堂 042-752-2303	文具のホソノ 042-782-1384
越路屋 042-742-7773	(株)宝月堂文具店 042-752-2083	(株)プロワーク 042-730-5251
昭文堂 042-762-1532	(株)ミリオン事務機器 042-784-3856	

事務局 〒252-0239 相模原市中央区中央3-12-3(商工会館内) TEL 042(750)2838 FAX 042(750)2855
URL:<http://www.e-jimu.jp> e-mail:kumiai@e-jimu.jp



八千代銀行

相模原法人営業部 / 東林間支店 / 相模大野支店 / 相模台支店
 古淵支店 / 淵野辺支店 / 大沼支店 / 相模原支店 / 南淵野辺支店
 千代田出張所 / 橋本支店 / 上溝支店 / 田名支店 / 二本松支店 / 城山支店

信用金庫から銀行へ転換し、おかげさまで20周年を迎えました。これからも充実した金融サービスはもちろん、環境保護や教育支援などを通じ、お客さまと地域社会の未来づくりをお手伝いしてまいります。

20周年、ここから未来へ。 



Bank of Yokohama

Afresh

あなたに、あたらしく。

お客さま一人ひとりに、
 最もふさわしい金融サービスとの出会いを、
 あたらしく創りあげていきます。

横浜銀行